

創立40周年記念式典 喜びの言葉

私たち生徒一同は、創立40周年という記念すべき年に、新潟東高校生として立ち会えたことを、とても嬉しく感じています。また、私自身、幸運にも、生徒会長として迎えることが出来ましたことを、大変光栄に思っています。

本校は、昭和54年に、「新潟東地区に県立学校を」という地域の熱く、切なる思いから設立されましたとうかがっています。以来、1万2千人の卒業生が巣立ち、地域のみならず、日本または世界において、ご活躍をされていることは、皆さんご存じのことと思います。

さて、私たち新潟東高校のシンボルとして、お手元の葉に掲載されています校章があります。その校章を制定するにあたって、初代校長福島寅嘉（ふくしま とらよし）先生は、「光は東方より」という古人の言葉を思い起こし、「東」に由来する様々な事象の中から「光」を選び、これを主題とする構想を得たそうです。私たちは、この新潟東高校で、東方から昇る太陽の光のごとく、溢れるエネルギーを、勉学に、部活動に、さらには東光祭や昇陽祭に代表される学校行事にぶつけ、様々な経験を経ながら、日々成長し続けております。そのような環境を整えていただいた歴代の校長先生方、諸先輩方、さらには保護者並びに地域の皆様に感謝しています。

そして現在、本校の先生方からは、本校で育てたい生徒像について、「自分を知り、地域を知り、自らの役割を考えて主体的に行動し、困難を乗り越え、粘り強く取り組む生徒」と聞いています。これは、先の見えないこれからの社会を乗り越えていくために、必要なものが盛り込まれていると思います。

今後、こうした生徒を育てるために、今年度から、総合的な探究の時間を教育課程の柱に据え、先行実施しており、「あゆの風プラン」と名付け、現在順調に進んでいるようです。

在校生もこの「あゆの風」に乗って、全国に、そして世界にと今後も羽ばたいていくことになるでしょう。そして、いずれは、地元のために自らを活かしていきたいと、思いを新たにしています。

さて、皆さんは、SDGsを知っていますか。これは、持続可能な社会達成のための開発目標で、中でも特に、課題として挙げられるのは、水・地球温暖化・プラスチックごみ、とのことです。私たちがこれから生き抜く社会は、社会に貢献しながら収入を得ていく時代になると言われており、こうした社会課題に対する感性が大切になってくるはずで、現在本校が取り組んでいることが必ず実を結ぶはずです。

私たちは常に先を見据え、新潟東高校で培った力を、社会において思いきり発揮し、自分自身で未来を切り拓いていきたいと考えています。

最後になりますが、これまで新潟東高等学校を築き上げてくださった皆様に、心から感謝申し上げますとともに、私たち在校生も、引き続き成長し続ける新潟東高等学校の一員として、愛着と誇りを持ちながら、学校生活を大切にしていくことをお誓い申し上げ、喜びの言葉といたします。

令和元年11月2日

生徒代表 金子 亨